YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

Rotary 横浜旭ロータリークラブ

ロータリーのマジック

2024-25年度 RI会長／ステファニー・アーチック
RI.D2590ガバナー／長戸はるみ
横浜旭RC会長／北澤　正浩

ガールスカウトとクリーン作戦

第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区
横浜旭ロータリークラブ
事務所　横浜市旭区万騎が原33／〒241-0836
TEL.080-1215-6668／FAX.045-362-0024
http://yokohamaasahirc.org
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場　二俣川駅ジョイナステラス3／4Fコミュニティサロン
例会日　月３回水曜日／12時30分～１時30分

２０２４年７月24日　第２５５０回例会　VOL. 56　No.3

■司　会　SAA　関口　大樹

■開会点鐘　会長　北澤　正浩

■斉唱　手に手つないで

■出席報告

会員数	２０名	本日の出席数	１２名
本日の出席率	63.16％	修正出席率	75.00％

■本日の欠席者

福村、日向、目黒、中谷、二宮、宋、佐藤（真）

■他クラブ出席者

北澤、市川（地区）

■ビジター

山田　哲夫（川崎 RC）

■皆出席表彰

五十嵐会員 31 年　　新川会員 21 年

■ゲスト　吉原　貞行様

吉原則光の息子になります。吉原貞行と申します。父則光が５月 21 日に亡くなりまして、皆様方

のご葬儀ご参列誠にありがとうございました。

７月の初めに納骨を済ませまして、一応父も新しい地へ旅立ったこと、皆様にご報告させていただきます。

本当に父はこのロータリーには毎回欠かさず出席させて頂きました。そしていろんな事を話しておりました。戦争の事とか相鉄の事とか、いろんな事をロータリーで話していたと思いますが、学校の事とか、うちの父は教員をしておりましたが、学校の事とか地域の事、意外に話しておりません。

父は昭和 10 年代の思い出が非常に強くて、その思い出を皆さんに聞いていただいたことが大変嬉しいことだったと思います。

そしてもう一つは川柳。ロータリーの友に投稿させていただいたこと本当に喜んで、毎月ポストに出すんです。時々掲載されて本当に喜んでおりました。いつまでも忘れないでいただければと思

います。本日はありがとうございました。

■会長報告　北澤　正浩

皆様、こんにちは。

本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。季節が巡り、梅雨も明けて本格的な夏が始まりましたが、暑さが日ごとに増してまいります。皆様の健康が第一でございますので、暑さ対策には万全を期し、熱中症には十分ご留意いただきたいと思います。適度な水分補給や休憩を取り入れ、どうぞ体調を崩されませんようお願いいたします。

本日は、当クラブの会員であった故吉原様のご子息でいらっしゃる吉原様にご出席いただきました。心より感謝申し上げます。私がこのクラブに入会した際、吉原様は常に温かい声をかけてくださり、その心遣いに深く感謝しております。特に毎年８月にお話しいただいた終戦記念卓話は、私の心に強く刻まれております。

吉原様のお話には、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜かれた体験が鮮やかに描かれており、地元今宿で生まれ育った私にとって非常に感銘深いものでした。吉原様が語る光景は、歴史の一部としてだけでなく、私たちの未来への教訓としても重要なものです。現在、直接お話を伺うことができなくなったことは非常に寂しく思いますが、その語りは私の記憶に深く刻まれており、私の子供たちにも伝えていきたいと考えております。

吉原様からは、ロータリアンとしてのあるべき姿や、奉仕の精神、そして人々に対する真摯な態度を学ばせていただきました。これからもその教えを胸に、吉原様の遺志を継いでいきたいと思います。吉原様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、去る７月 11 日に第１回目の会長・幹事会が開催されました。地区の会長および幹事が一堂に会し、各クラブの現状について意見を交わす貴重な機会でございました。まず、各クラブの状況を共有する中で、二度目の会長職に就任されている方々の多さが目立ちました。当クラブも同様ですが、会員数の減少に伴い、順番が早く回ってくる状況があるとのことです。会員増強はどのクラブにおいても共通の課題であり、各クラブがこの点において多大な努力をされていることを改めて実感しました。

また、今年度から始まった３ヵ年計画についても各クラブでの取り組み状況が報告されましたが、具体的な計画や目標を詳細に立てているクラブは少数であるように感じられました。当クラブでは、幸いにも３年間の行動予定の大枠が決まり、最終目標も定められ、ある程度順調なスタートを切ることができました。ただし、計画はあくまで計画に過ぎません。皆様のご理解とご協力を得て、計画を実行に移し、クラブ全体で取り組む姿勢を持ち続けることが不可欠です。

既に防災セミナー開催に関して場所探しで問題が発生しております。皆様には、一人ひとりがより積極的な参加意識を持ち、当クラブの３ヵ年計画に参画していただくようお願い申し上げます。

本日の卓話を川崎ロータリークラブの山田哲夫様にお願いいたしました。旅に関するお話ということなので、私はとても楽しみです。よろしくお願いいたします。

■幹事報告　市川　慎二

１）例会臨時変更のお知らせ

○横浜瀬谷 RC

８月 30 日㈮　夜間移動例会

⇒ガバナー公式訪問点鐘 12 時 30 分

○横浜南陵 RC

８月 15 日㈭　休会

８月 22 日㈭　夜間例会　点鍾 18 時 30 分

○横浜南央 RC

８月 13 日㈫　休会

○横浜保土ヶ谷 RC

８月 12 日㈪　休会

８月 26 日㈪　休会

■社会奉仕委員会　岡田　　隆

10 月 20 日日曜日、旭区区民祭りが 10 時か

ら 15 時の予定で、会場は昨年と同様旭区役所で行われます。すでに協賛金３万円で申し込みをさせて頂いております。

出店の申し込みを今週中にしなくていけないのですけど、団体 PR の部門での申込書を頂いております。団体 PR のブースは物品販売は禁止とされております。例会終了後委員会を行いますので、御残りください。

■ニコニコ BOX

吉原　貞行様／父　吉原則光　生前　大変お世話になりました。

山田　哲夫様（川崎 RC）／本日は RI2670 地区（四国）が行う社会奉仕事業に協力して、遍路文化を PR させて頂きます。

北澤　正浩／①吉原貞行様、本日はご出席いただきありがとうございます。②川崎 RC 山田哲夫様、本日の卓話楽しみにしております。

新川　　尚／川崎 RC 山田様、本日の卓話宜しくお願いします。②皆出席祝を頂いて。

五十嵐　正／①川崎クラブの山田様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願いします。②吉原様本日はご来場いただきありがとうございます。則光様の事懐かしく思い出します。③ 31 年の皆出席ありがとうございます。

安藤　公一／山田様、本日の卓話よろしくお願い致します。②吉原さんようこそお出でくださいました。

田川　富男／①吉原貞行さんロータリーにようこそ。当然ですが、お父さんに雰囲気が同じですね。今後も宜しくです。②山田哲夫会員、本日の卓話お願いします。

佐藤　　勉／山田様、本日卓話よろしくお願いします。

岡田　　隆／山田哲夫様、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日の卓話楽しみにしております。

市川　慎二／①山田哲夫様、本日の卓話宜しくお願い致します。②吉原さんようこそお越し下さいました。

■遍路道 1,300 ㎞徒歩の旅　山田哲夫様（川崎 RC）

〈遍路歴〉2001 年秋（9 ～ 12 月）－ 02 年春（4 ～ 6 月）に 6 区間に分けて通算 47 日間、２０１９年平成から令和に改わるゴールデン・ウイーク期間に阿波讃岐の一部を巡る

『四国へんろ霊場全図』（P8 参考資料）

2001 年 9 月 30 日㈯、第一番札霊山寺（鳴門市）に着きました。

札所の売店で遍路用品を一式購入し、礼拝の指導を受けて白衣（帷子）に着替え、輪袈裟を懸け、菅笠をかぶり、金剛杖を持って、凛とした遍路姿に変身して本堂に立つ。様にならず恥ずかしい。

堂内は線香の煙が充満し、団体遍路による般若心経や御詠歌の大合掌でした。私は礼拝の順番を間違えたり、札所を出てから杖を置き忘れたことに気付いて引き返したことなど、いまも忘れません。

遍路道を歩き始めて直ぐ、若い子連れの女性が「こんにちは」と、声を掛けてきました。これに応えて返事をすると恥ずかしさはいっぺんに消えて幸せというか、そういう気持ちが満ちあふれ、歩き進むにつれ、こういう贅沢な旅ができたことに感謝しなければ、としいう気持ちでした。そこはもう日常の空間ではなく異次元です。そこに自分がいることが、嬉しくてうれしくてしょうがなかったわけです。

遍路第一日は 18㎞ 歩き、6 番札所安楽寺宿坊に泊る。

［遍路今昔］

ところでヘンロは古くはヘジ（辺路）あるいはヘンジと云いました。熊野古道には大辺路・

中辺路・小辺路の名がいまも残っています。ヘジは修行のために巡り歩くことだそうです。平安時代の真言宗の開祖、弘法大師・空海は讃岐（香川県）に生まれ、若い頃四国中を廻ってヘジ修行したわけです。

江戸時代に弘法大師信仰から大師修行の道をヘンロと言うようになり、辺の文字も大師の諡（おくりな）「遍照金剛」の遍が元禄（1700 年）頃から使われ、定着したようです。従って遍路とは、弘法大師ゆかりの四国の霊場やそれを結ぶ道を修行のために歩き巡ることですが、さらに意味を拡大して、現在は巡礼の意味を持ち“お遍路さん”と云われるように巡礼者を指すようになりました。

それでは、四国の札所霊場はすべて弘法大師の真言宗か？と云うと、現在の八十八札所は、真言宗が 80 カ寺。天台宗 3、臨済宗 2、曹洞宗・時宗・律宗が各 1 カ寺あります。また真言宗の寺に弘法大師堂があるのは当然ですが、他宗派の各寺にも弘法大師堂があり、お遍路さんは必ず本堂と大師堂で般若心経を唱えてお参りします。

さらに各札所には江戸時代までの神仏習合の痕跡が見られ、お寺と神社が同じ参道にあったり、85 番札所は仁王門の前に鳥居がありました。昔は神社が札所になっていた時代もあったので、真言宗の札所は現在よりも少なく、76 番善通寺貫首によれば「お大師さんは土地神の許可を得てお寺を建てた」という話でした。

七福神のようにインド、中国、日本の神仏が各所に祀られ、また 53 番札所にキリシタン灯籠があり、37 番の本堂天井絵にマリリン・モンローが描かれていました。

そこを巡る人たちもまた国際的で、欧米・ロシア・ネパール人に幾度か出会い、特に令和のときには外国人と女性遍路が一層多いのに驚きました。

と言うことは宗教や宗派、人種に関係なく、何でも受け入れてしまう空間であることが分かります。

しかし、遍路は歩いて巡るのが本来の形ですが、いまは車、それもバスで巡る団体遍路が圧倒的に多くなりました。車で札所を巡るというのは車社会になった 20 世紀後半のことで、これは札所だけを目的にお参りし、後はバスの乗り降りで、道はほとんど省略されてしまいます。

しかし、歩いて 1 千数百㎞を巡るには健康と体力に恵まれ、それなりの決意が求められ、病弱な人や高齢者が車で巡るのもやむを得ない。それで満足、喜びが得られるのであれば結構なことだと思います。

［遍路道と道標］

札所霊場を結ぶ遍路道は本米・弘法大師が歩いた道です。お大師さんは 1200 年前の人ですから、現在も残る当時からの道は僅かだろうと思います。いまの遍路道はどういう道か、と言うと畦道・獣道・沢道・尾根道・砂浜・ゴロゴロ石の磯道・古い町並み・民家の庭や植物図鑑の牧野富太郎記念植物園内にもあり、アーケード街が 3 ヵ所ありました。

しかし大部分は平凡な自動車道です。土の道も少なくなり、土は足への負担が少なく、私はそういう道を求めて歩きましたが、全行程の 5 分の 1 に満たないと思います。

車社会になって遍路道も大きく変わってしまいました。昔はなかったトンネルが遍路道に指定され、1 ㎞以上のトンネルが 3 ヵ所あります。嶮しい峠越への時代を考えると時間が短縮されて楽に通過できますが、そこには遍路文化が感じられません。せいぜいトンネル内に歩道が設けられて、お遍路さんへの配慮だな、と思われる程度です。私は峠道を歩くことを心掛けました。

このように便利さを求めると遍路文化の体験が少なくなります。遍路道を歩く“お遍路さん"は本来修行者でありますが、その修行も楽になって来たわけです。

遍路道には道標（みちしるべ）があります。『霊場図』の下に拓本「手　是より神峯江三拾丁」とあります石の道標で、他に「是より弘法大師への道」の

道標を多く見かけましたが、石は現在少なく、赤いシール・マークが電柱などに貼られ、巡礼者に道案内しているわけです。

石は風化で説めないのが沢山ありますが、それが道端にあるだけで遍路道であることを教えてくれます。道筋には祠やお地蔵などの野仏も見かけます。瞼しい山道でもお地蔵や馬頭観音などにしばしば出会いました。現在でも交通事故死のあった道端にお地蔵さんを見かけますが、それと同じで、おそらく野垂れ死にしたお遍路さんだと思います。

江戸時代、四国遍路に所持する通行手形には「万が一病死等仕り候はば其処の御作法を以て御取拾て下さるべく候、国元へ御届けに及び申さず候」と一文が記されたそうです。命懸けですね。今は路傍のお地蔵さんもそこが遍路道であることを教えてくれ、また旅の安全を護ってくれていることが、幾日も歩き続けると判って来ます。

空き缶を道ばたに投げ捨てるのはマナー違反ですが、山の中で道かどうか判らないような所で、樹の枝に懸けられた缶を見つけると安心します。「溺れる者は藁をも掴む」で、山で道に迷っている人には缶が道標の意味を持ち、缶を枝に懸けた人に感謝です。

道に迷うのは毎日のことですが、この“迷う”ことがなければ、歩き遍路の価値は半減します。

道を間違えて30分歩くと同じ時間をかけて引き返さなければなりません。1時間のロスで、重い荷物を背負い疲れている人にとっては辛く、また焦りにもなります。四国を歩いた山頭火は「落葉しいて寝るよりほかない山のうつくしさ」の句を残しましたが、これは旅慣れた感じです。

私は芭蕉の「野ざらしを心に風のしむみ哉」が歩き始めの二日目・四日目あたりの遍路転がし（難所）で幾度も頭を過ぎりました。過疎の村には地元民が見あたりません。道標もなく、あるいは見過ごしてしまうと、とんでもないことになりますが、それで道に迷っても他人の責任にすることはできません。自分の判断、不注意、行動の結果ですから自らに責任を求めなければストレスは何時までも残り解消しません。しかし遍路道を外れて歩いていると、遠くの方から地元民が大声で手を振って教えてくれたり、わざわざ車や自転車で追いかけてきて教えてくれることもありました。一人で黙々と歩いていても、どこかで地元民に見守られていることを感じます。

（2001年の遍路では携帯電話はなく、公衆電話も過疎の村に見当たらない。国道・寺・宿に有）

［接待］

地元民との最も親密な出会いが“接待”です。昔はお米をいただくことが多かったようで、米はまたお金の役目もしました。

私が受けた接待は、握り飯・うどん・饅頭・餅・菓子・果物・飲み物などで、お金も百円・弐百円くらいを各地で頂き、「飲み物代に」、あるいは「お賽銭に」と言って下さる方が多かったと思います。杖に「同行二人」と書かれ、お大師さんと二人で歩く、という意味ですが、私はお賽銭を頂いても、お大師さんが頂いたお賽銭をお預かりしているわけですから、次の札所の賽銭箱に納めました。

ミカンを袋に10コ位貰らった時には困りました。重たいんです。苦行を強しいられたようで、歩き遍路に出会えば分け与えました。

考えて見ますと、年間数千人が歩きますから接待する地元の方も大変です。この接待の風習は1千数百㎞の全コースにわたり、これには驚きでした。

しかし接待は一方的ではなく、お遍路さんは必ずお札（ふだ）をお返しします。そのお札は商店や食堂の壁一面に貼られているのを見ました。

伊予の千人宿記念大師堂に泊ったときのことです。千人宿ですから千人宿泊できる大きな宿坊のような施設と思って行ったところ、小さな村の小さなお堂で近所の管理人に許可を得て泊ります。管理人宅にお願いに行くと風呂とうどんの接待を受けました。幸い私一人で、それか

らお堂に籠もると正面仏壇に大師像があり、その下には花瓶に数本の花が生けられ線香たてや木魚が置かれています。自分の杖を仏壇前に立てます。「同行二人」の杖は五輪塔を模して作られ、お大師さんの分身とされるので、どの宿でも洗って床の間に置きます。そうして白装束で畳に横たわりますと・・・、棺桶の中でなくても、そんな雰囲気、そんな状態を想像してしまいます。このようなお堂を通夜堂とも呼ぶようで、歩き遍路の無料の宿泊施設として四国各地にあります。

この通夜堂の体験ばかりではなく、遍路中“死”について考えることが度々あり、そんな時は遍路は死を考える旅だと思いました。そのような体験は御免だ！と云う方が多いと思いますが、遍路以外ではできないことだと思います。しかし裏を返せば生きることを教えているのだ、と気付きました。

私は遍路スタイルで松山や高知の繁華街を堂々と歩きましたが、このスタイルで歩くと余所者扱いされません。お遍路さんだと旗幟鮮明（きしせんめい）にしているからです。面白いことに、ハイキング・スタイルで歩くのは若い人達ですが、接待はなくなり、それどころか瞥戒されることもあるようす。私も当初杖を持たずに歩こうとしましたら、それでは同行二人でないと言われました。遍路スタイルで歩けば鈴の音を聞いて家から接待に出てくる婦人もいました。他にはない良き風習が遍路道にあるわけです。

接待を受けて立ち話をするのも遍路ならではの楽しみで、地元民からは出身地や遍路の理由を聞かれます。私の方はこれから先の目的地までどんな道か、距離・時間・目印・食堂・商店などの情報を仕入れ、風物・人情などにふれるチャンスになります。話が楽しくても、ゆっくりしている余裕はなく先を急ぐことが殆どで、そんなことを含めて接待は遍路文化の一つと言えます。

［歩き旅］

毎日毎日歩き続けるためには食料や衣類などの生活用品の準備が必要になります。初めはあれも必要これも必要でリュックに沢山詰めてしまいます。特に女性の準備は大変です。それで歩き始めると重い荷物を背負うことになり、自分で自分を苦しめていることが判ります。物欲を拾て、生きるためには何を残せばいいか、それに気付いて荷を減らすと身体も心も軽くなり、生きやすくなります。大げさに言うと人生が楽になるわけです。

また、食べることも日常生活のようなわけには行きません。大きな町や国道沿いには食堂・レストラン・コンビニがありますが、そこを外れた過疎の村にはありません。朝、遍路宿で握り飯を作ってもらえばいいのですが、素泊まりの宿もあるため携帯食は欠かせません。そのような不便な歩き旅ですから接待で食べ物・飲み物を頂くことが多くなるのだと思しいます。まともな食事がとれずに一日中歩き廻る日が続きますと、食べることの有り難さ、楽しさ、感謝の気持ちを持つようになり、飽食の時代に生きる私には貴重な体験であったと思いまず。

私たちは神仏に対して御利益を願うのが普通ではなしいかと思しいます。こうした歩き旅・巡礼を続けていると御利益を願う気持ちが後退して感謝に改わってくることを多くのお遍路さんが経験されるようです。今日も無事に歩けた、あそこであの人に出逢わなかったら、宿で飲み水を準備してよかった。歩き遍路は台風のような暴風雨のとき以外は歩きますが、ずぶ濡れで泥だらけになっても遍路宿では嫌がらず迎えてくれます。お遍路さんは不平不満を言えません。観光地の宿泊施設では考えられなしいことで、それは伊豆の歩き旅で思い知らされました。洗濯は自分でしますが、翌朝までストーブで乾かしてくれる宿もあります。これも接待の一つかも知れませんが、地元民に支えられての旅であることを思い知らされ、感謝感謝の日々です。

こうして、ひたすら歩き続けますと拘りから心が解き放たれ、大自然に順応している自分を発見します。時計よりも太陽の位置を見ながら

歩いています。

私は石鎚山に登りましたが、ここは修験道の山で60番・64番札所の奥の院に当り、空悔も修行した霊場です。今治の麦畑を歩いているときに遥か彼方に頂を望みましたが、それから山頂に立つまでの三日間は幾つもの山の登り降りで、山頭火の「越えても越えても青い山」の句が実感されました。しかも登頂前日は雨と霧の中を黒川道という行者道を登りましたが、いま振り返ると、まさに動物的感覚で歩いていたように思います。

山道では、足元の可憐な花にハッ！とさせられ、タヌキ・ムササビ・ヘビ・タカ、始めて見るような野鳥や昆虫、動・植物に出会いながら歩き続けますと、これらの生き物が愛おしくなり共に生きる仲間であることが実感されます。

［おわりに］

自然と文化が織なす遍路空間を五感を全聞させて歩く楽しさを覚えた私は、健康目的であっても義務的なウォーキングに物足りなさを感じます。よく「一日一万歩あるけ」と言われますが、これは足腰の筋力を維持するために必要な運動量を云っているのだと思います。リラックスして五感をつかう歩き方をしていただきたい、歩く楽しみを身体で覚えていただきたい、さらに今日お話しできませんでしたが、歩行に呼吸法を取り入れて行えば、身体に負担なく心（精神）に有効な長距離歩行が可能になります。

皆様のご健康を願って私の拙い話を終わりにいたします。ありがとうございました。

【世界で行動するロータリアン】

◆ベリーズ

中央アメリカ北東部、ユカタン半島の付け根に位置し英連邦王国に属する立憲君主制の国家

ベリーズシティ・ローターアクトクラブは、青少年に焦点を当てた活動の一環として、農村部の学校とロータリークラブが設置を支援した公園の改修を行っています。4月には、会員が幼稚園に集まり、トイレのペンキ塗りやその他の美化活動を行いました。今後は新しいトイレの設置も予定されています。「10教室の黒板をホワイトボードに交換し、プリンターやその他の学校用品、衛生用品を寄贈できた」と、直前会長のクリストフ・ニコルソンさんは話します。クラブは通信プロバイダー業者と提携し、スマートフォンが当たるくじ引きを行ってプロジェクトの費用を賄いました。また、第4250地区から1,000ドルの補助金も受けました。ニコルソンさんによると、3月にはバラマの公園でバスケットボールとゴールネットを交換し、ベンチと遊具のペンキ塗りを行ったとのことです。**ベリーズにおける15歳未満の人口の割合35.6%**

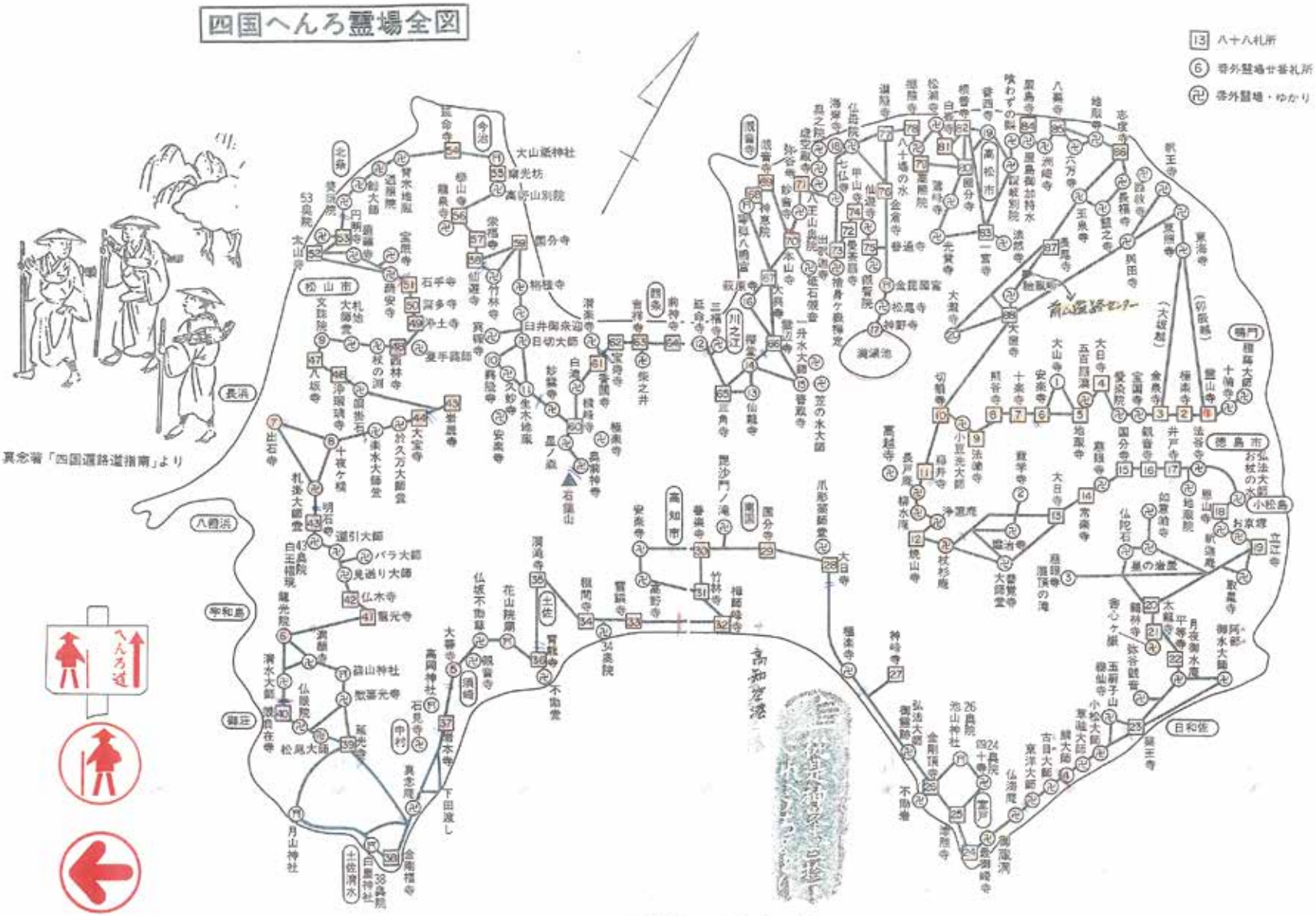
◆コロンビア

ククタ・シウダード・デ・アルボレス・ロータリークラブは1月、ボゴタから北東に約560キロメートル離れた町で、約600ドルの学用品を購入し、ノート、鉛筆、ペン、消しゴム、鉛筆削りなどを含む文具100セットを同市の生徒たちに提供しました。また、同クラブの会員はラス・デリシアス近隣の生徒たちも支援しました。「勉強道具を受け取って喜ぶ生徒たちを見て、自分たちの心も温まり、支援を継続していく励みになった」と、元クラブ会長のドラ・パトリシア・ロボさんは話します。このプロジェクトが始まって以来、1,400人以上の生徒が恩恵を受けています。**コロンビアにおける識字率96%**

■次週予告

8/14　休会

8/21　ガバナー公式訪問



『空海の史跡を尋ねて 四国遍路ひとり歩き同行二人』別冊
へんろみち保存協力会編 1997年9月1日第5版より